

2003年度中間期 (2003年9月期)  
**業 績 概 要**

日本ビクター株式会社

2003年10月27日

## 1.減収ながら、営業利益・純利益増益確保

営業利益：103億円 (4/25公表90 / 前年89億円・前年比115%)

純利益：35億円 (4/25公表30 / 前年14億円・前年比253%)

ソフトメディア事業の増益 (24億円 / 前年6億円 / 前年差 + 18億円)

## 2.米州、国内民生販売の苦戦

米州：DVC (前年比136%) が健闘するも、CRT TV (55%) が低迷

国内：期待のデジタル新商品投入で挽回するも、

アナログ系従来商品の落ち込みが予想を上回る

## 3.デバイス事業の不振

営業利益 12億円 (前年0億円/前年差 12億円)

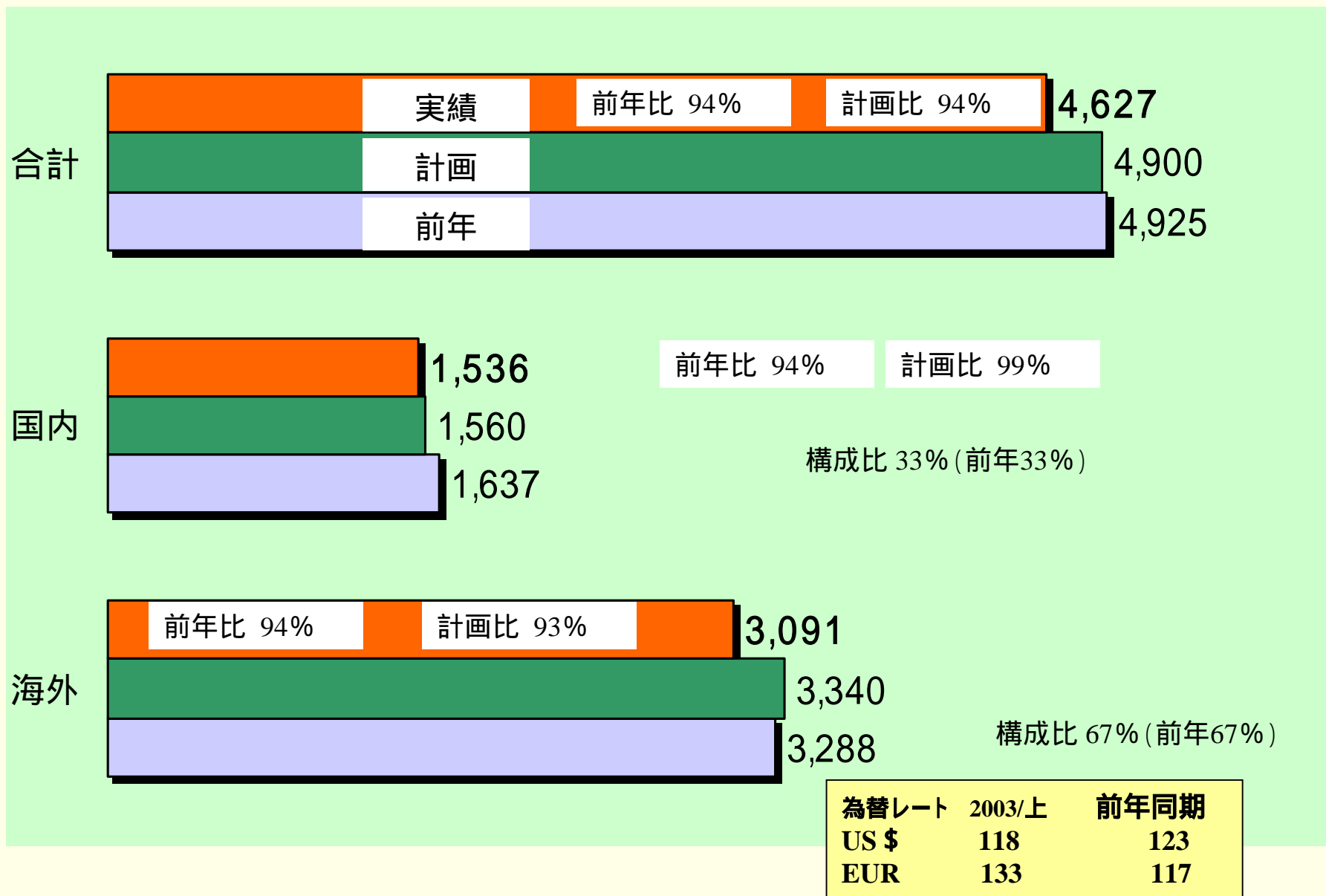
## 【連結】

(億円)

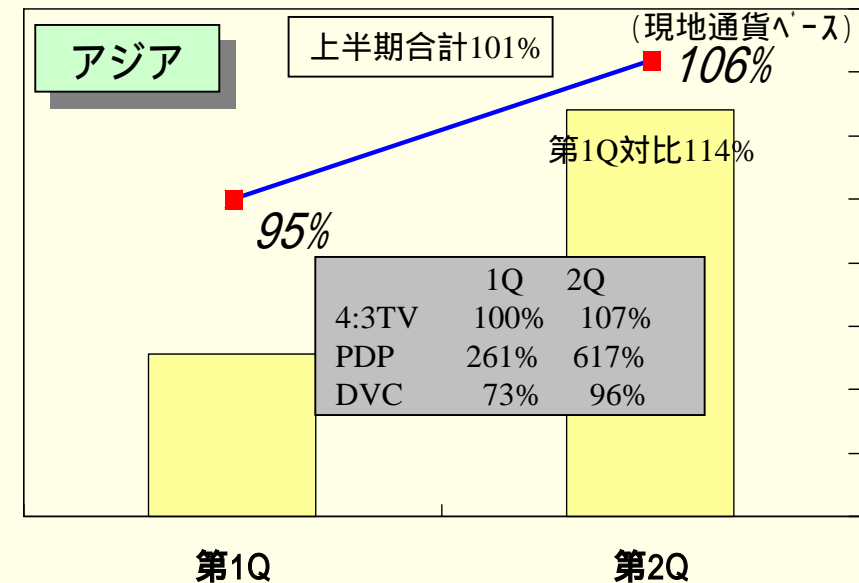
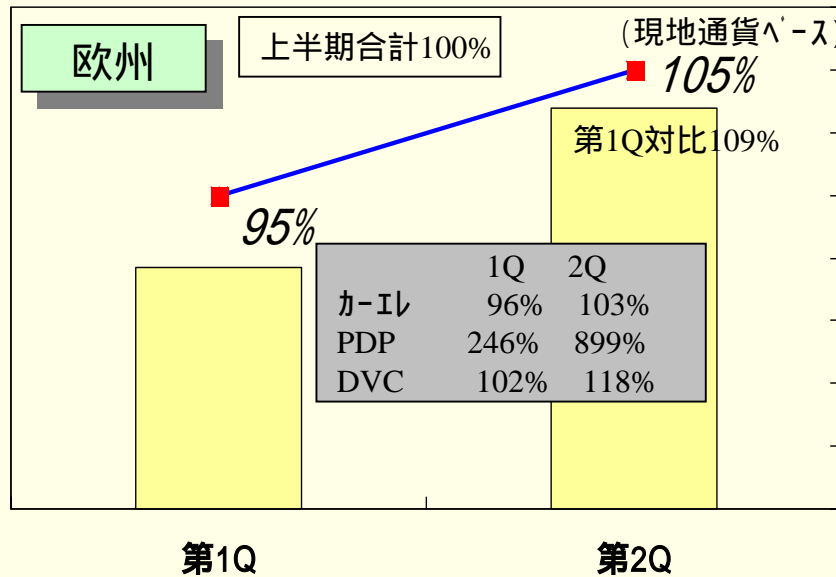
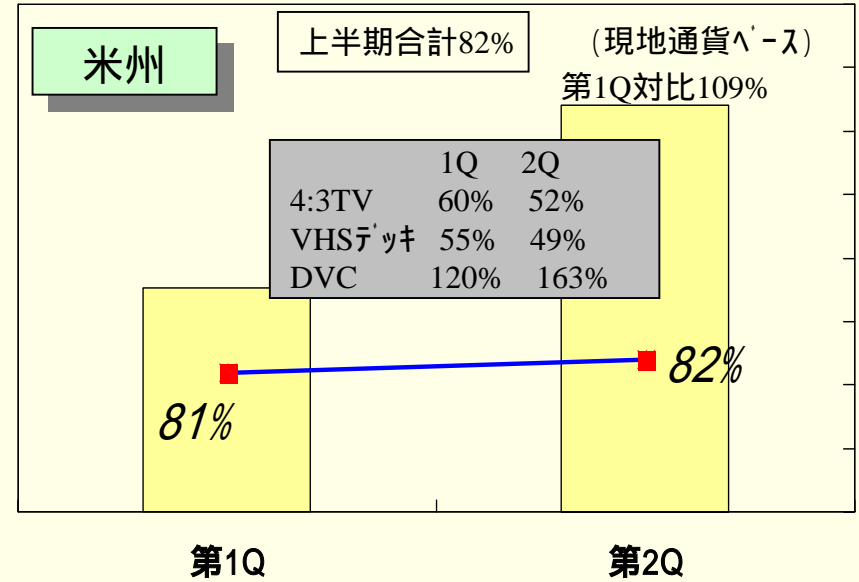
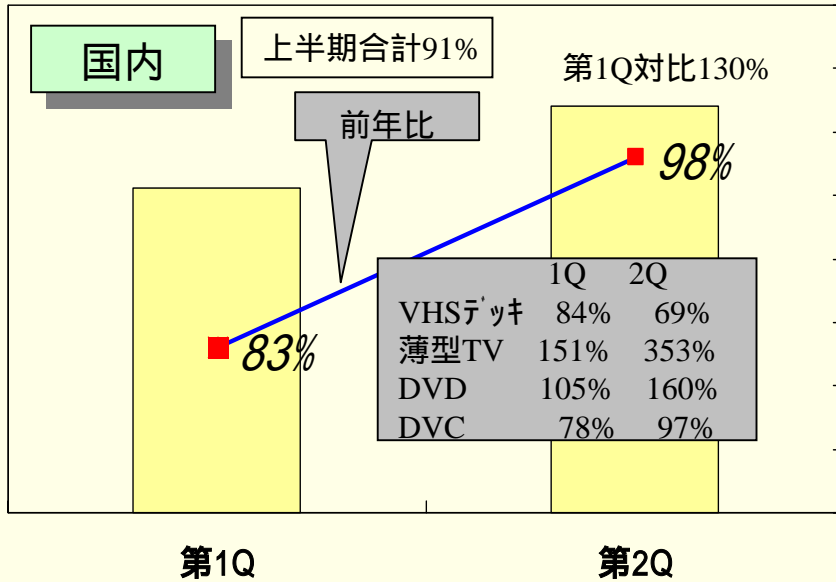
	実 績	4/25公表	前年実績	公表差	前年差
売上高	4,627	4,900	4,925	(94%)	(94%)
営業利益	2.2% 103	1.8% 90	1.8% 89	13	13
経常利益	1.6% 73	1.4% 68	1.2% 60	5	13
純利益	0.8% 35	0.6% 30	0.3% 14	5	21

## 【単独】

	実 績	4/25公表	前年実績	当初差	前年差
売上高	2,543	2,505	2,765	(102%)	(92%)
営業利益	2.5% 64	1.8% 45	1.6% 45	19	19
経常利益	2.1% 53	1.8% 44	1.4% 38	9	14
純利益	1.5% 39	1.3% 33	0.7% 19	6	20



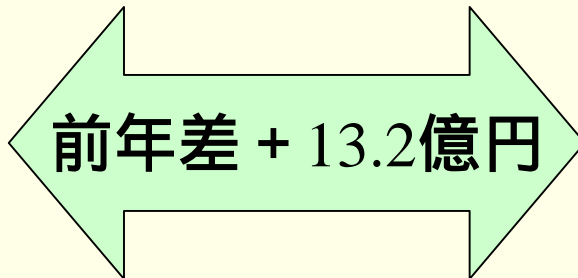
# 2003年度 上半期 民生の販売状況(前年伸長)



# 2003年度上半期 損益増減分析(前年差)

前年  
営業利益 89.4

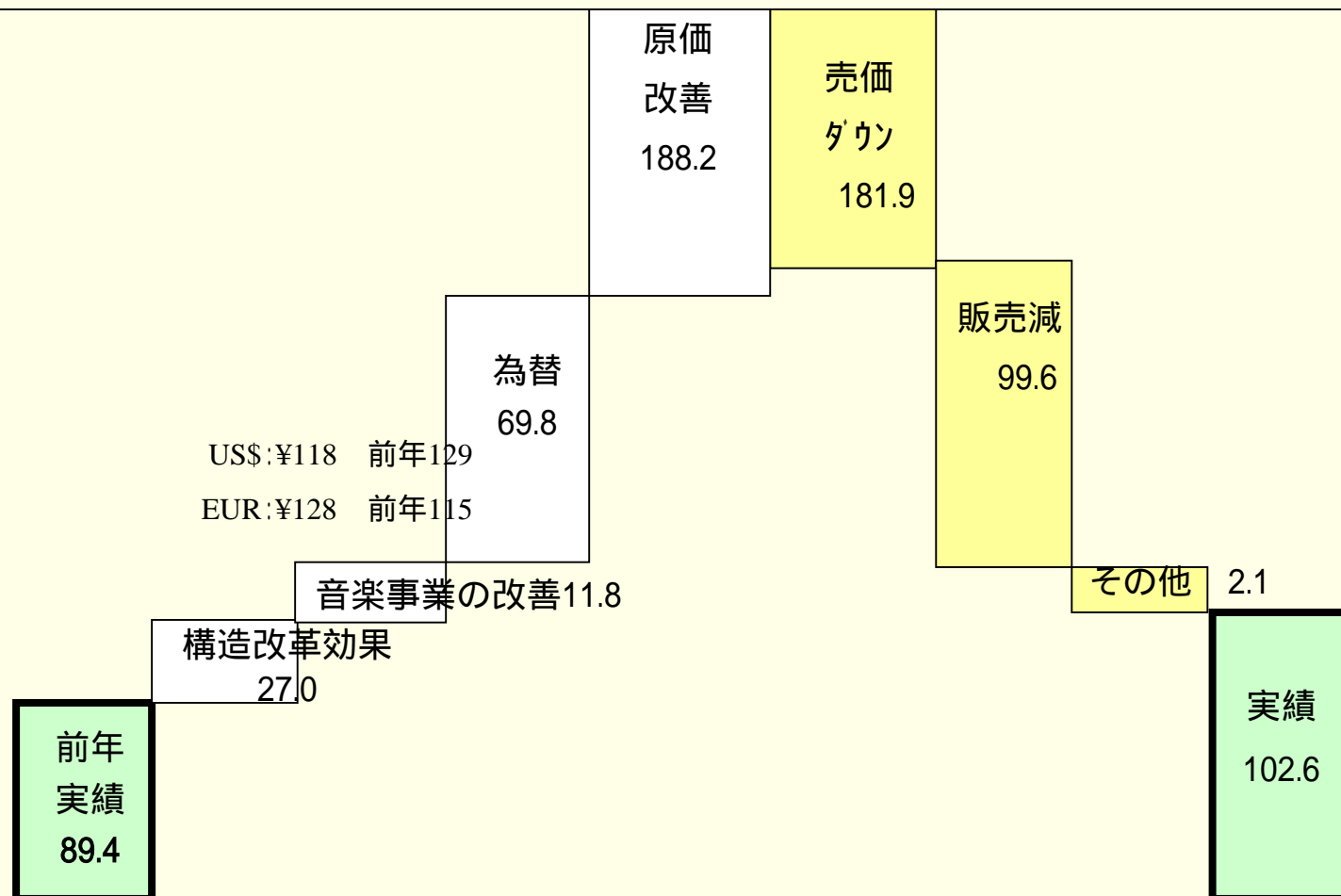
利益増加要因



実績  
営業利益 102.6

(億円)

利益減少要因



【事業分野別】

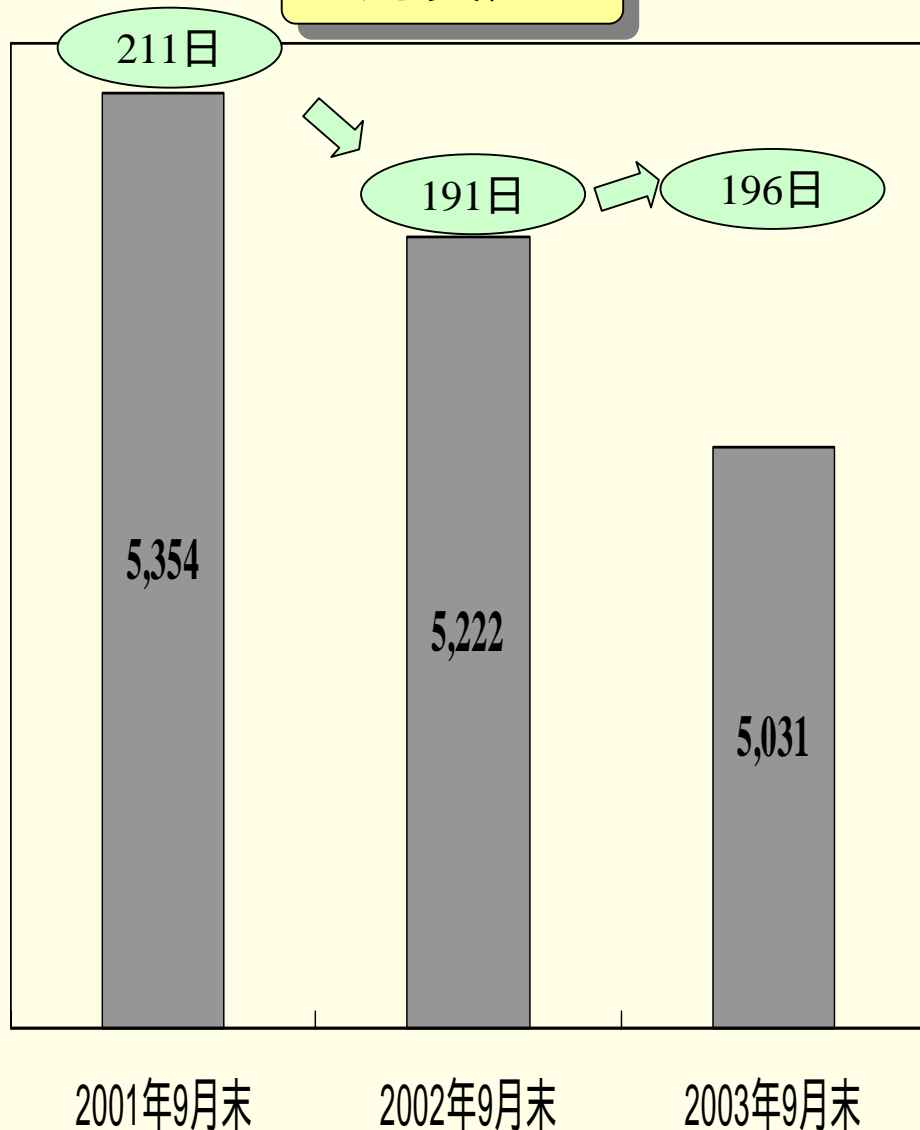
(億円)

	第1Q			第2Q			上半期		
	実績	前年	前年差	実績	前年	前年差	実績	前年	前年差
民生	41	55	14	65	54	11	106	109	3
産業	18	22	4	6	2	8	12	24	12
デバイス	3	2	1	9	2	11	12	0	12
ソフト・メディア	6	8	14	18	14	4	24	6	18

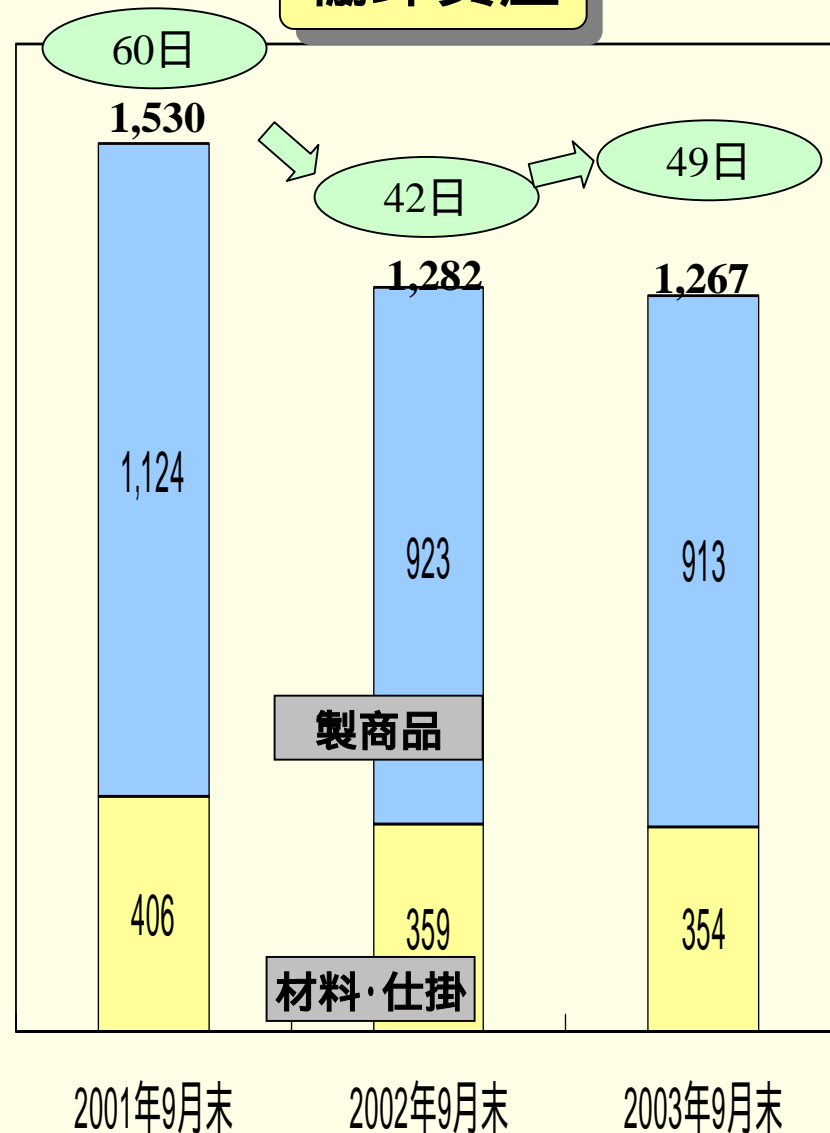
# 2003年度上半期 総資産の状況

為替レート	2001/9	2002/9	2003/9
US \$	119	123	111
EUR	109	120	129

## 総資産



## 棚卸資産

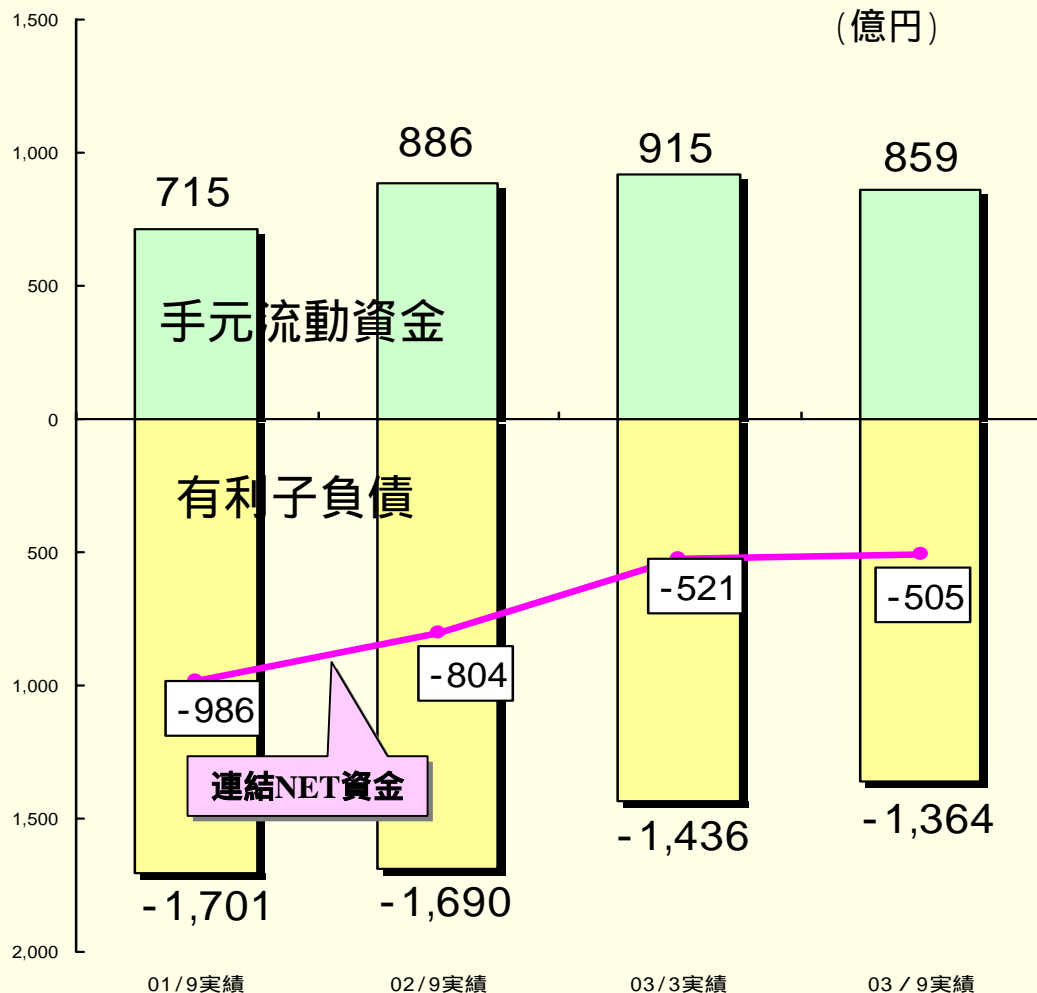


(億円)



## 連結C / F 計算書

税引前利益	64
減価償却費	101
棚卸資産	180
運転資金改善	59
その他	48
営業C / F	92
固定資産	101
その他	76
投資C / F	25
フリーキャッシュフロー	67
社債の償還/消却	63
その他	1
財務C / F	64
その他調整	3
現金増減	6
期首残高	834
期末残高	840



	2002年度	2003/上 (億円)
設備投資	130	75
減価償却費	151	61 (除く金型投資)

当初公表通り。

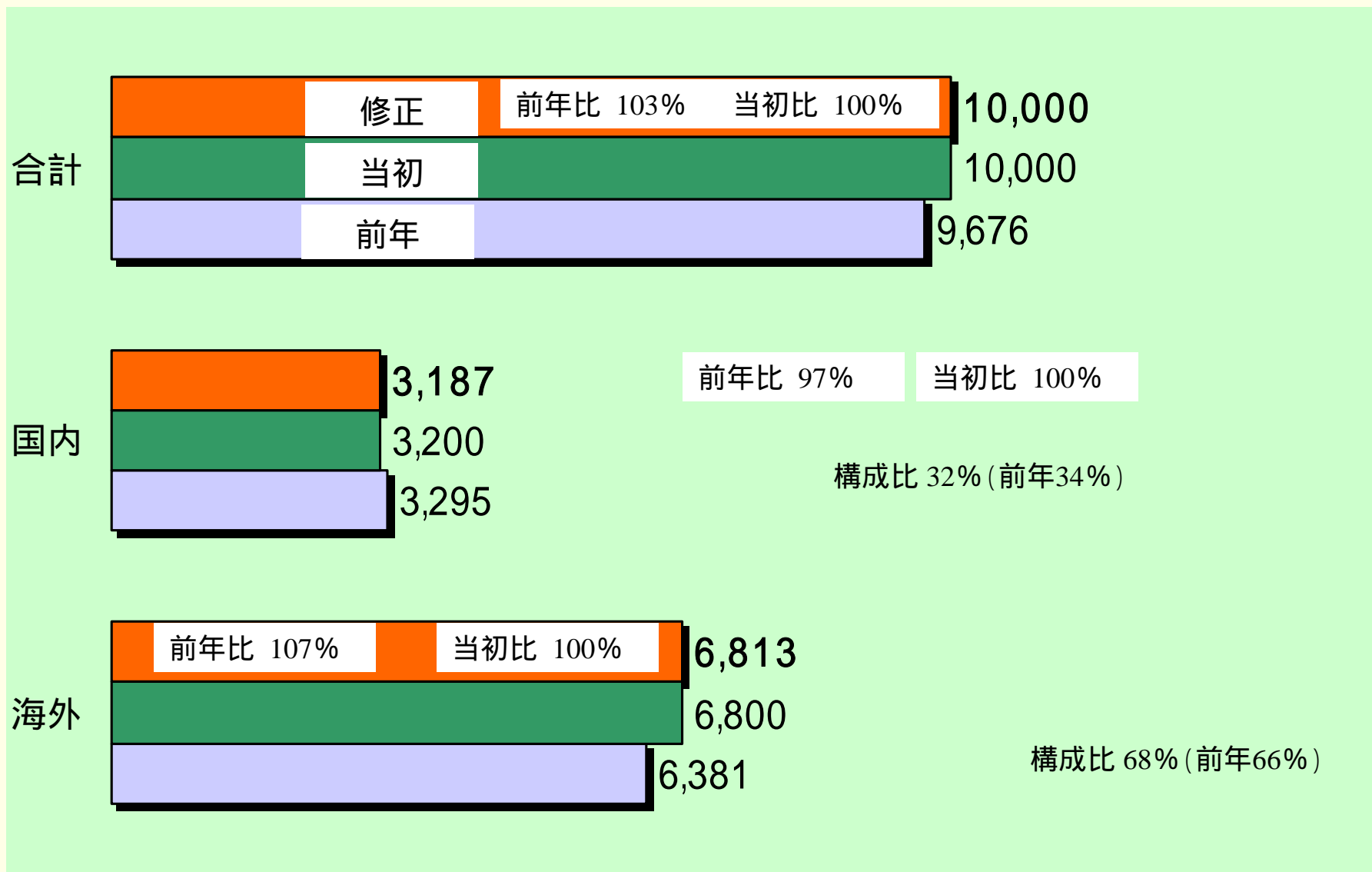
(億円)

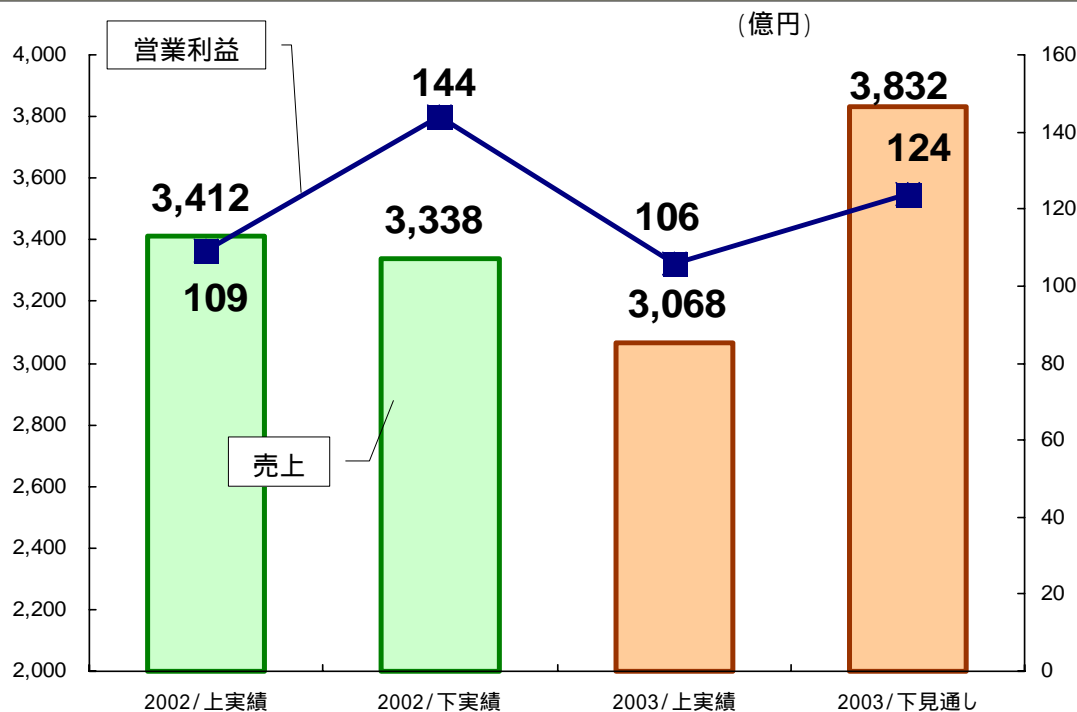
## &lt; 連結 &gt;

	業績予想	当初公表(4/25)	当初公表差	前年差	前年実績
売上高	10,000	10,000	100%	103%	9,676
営業利益	2.5% 250	2.5% 250	0	27	2.3% 223
経常利益	2.0% 200	2.0% 200	0	27	1.8% 173
純利益	1.1% 110	1.1% 110	0	47	0.7% 63

## &lt; 単独 &gt;

	業績予想	当初公表(4/25)	当初公表差	前年差	前年実績
売上高	5,269	5,269	100%	101%	5,228
営業利益	1.7% 90	1.7% 90	0	17	1.4% 73
経常利益	1.7% 87	1.7% 87	0	29	1.1% 58
純利益	1.2% 65	1.2% 65	0	43	0.4% 22





## 上半期の販売状況

	実績	計画	達成率	前年比
国内	517	580	89%	91%
海外	2,551	2,795	91%	90%
合計	3,068	3,375	91%	90%

(前年比: 海外は現地通貨 ベース)

国内: 薄型TV254%・DVDプレーヤー/レコーダー137%・ビデオデッキ48%

米州: 4:3TV55%・プロジェクションTV165%・ビデオデッキ52%・DVC136%

欧州: DVD132%・PDP425%・DVC109%・ビデオデッキ51%

## 上半期の増減要因 (前年差)

### 【増益要因】

- 原価改善
- 為替の良化

### 【減益要因】

- 売価ダウン (約10%)
- 販売の未達

## 下半期のポイント

- 国内: Only1商品のラインナップ強化・拡販
- 米州: 地域量販店での拡販  
デジタルTV戦略の強化
- 欧州: 新商品の市場導入  
(液晶TV・DVDレコーダー)

	2003年見通し	2003年当初	2002年実績	当初比	前年比
売上	6,900	7,000	6,750	99%	102%
営業利益	3.3%	3.1%	3.7%		
	230	220	253	10	23

## 上半期の販売状況

	実績	計画	達成率	前年比
国内	228	235	97%	103%
海外	138	145	95%	121%
合計	366	380	96%	109%

(前年比 : 海外は現地通貨へ入)

国内:セキュリティ101%・プレゼン102%

海外:セキュリティ81%・プレゼン109%

## 上半期の増減要因(前年差)

### 【増益要因】

- 販売増加
- 原価改善

### 【減益要因】

- 売価ダウン

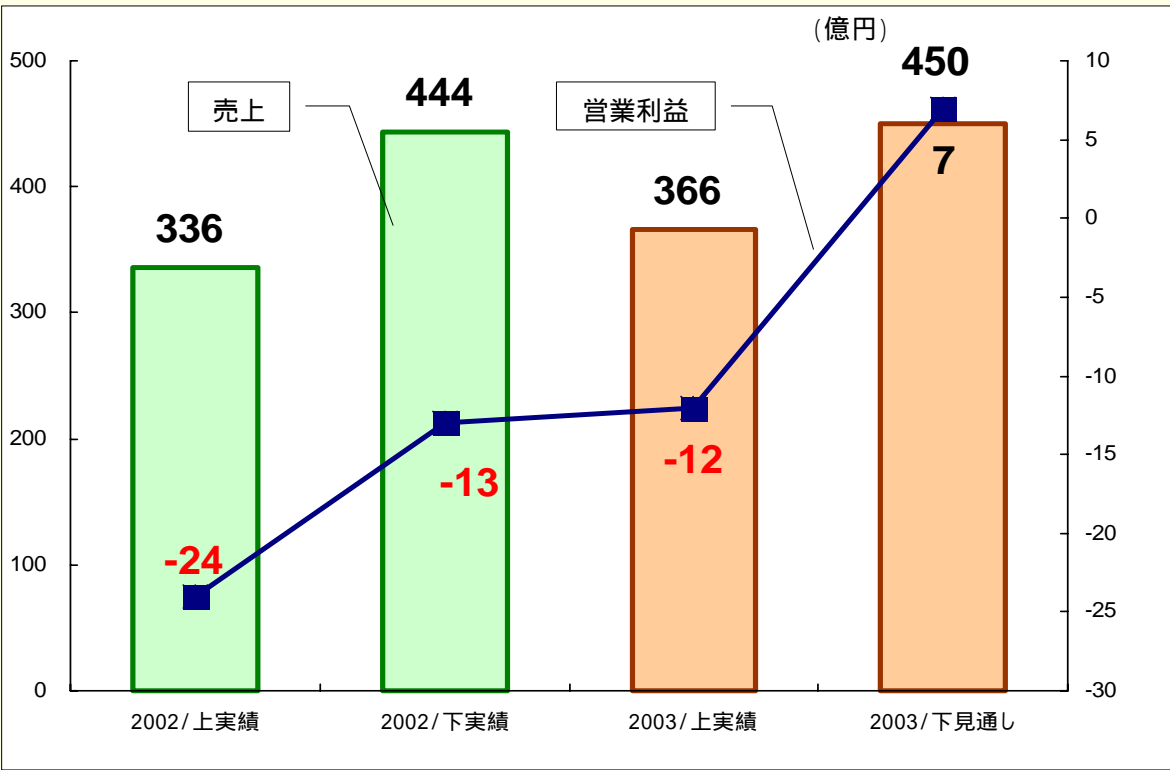
## 下半期のポイント

### •販売の確保

- 新商品の導入
- 引き合い物件の受注化促進

### •原価改善

- 設計VEの推進



	2003年度見通し	2003年当初	2002年実績	当初比	前年比
売上	816	780	710	105%	115%
営業利益	-0.6%	-1.3%	-5.2%	5	32

## 上半期の販売状況

	実績	計画	達成率	前年比
国内	18	20	90%	90%
海外	322	330	98%	136%
合計	340	350	97%	133%

除く新規連結会社前年比70%

(前年比)

モータ94%・偏向ヨーク60%・サーキット111%・光Pu67%

## 上半期の増減要因(前年差)

【増益要因】

- 原価改善
- 構造改革、固定費削減

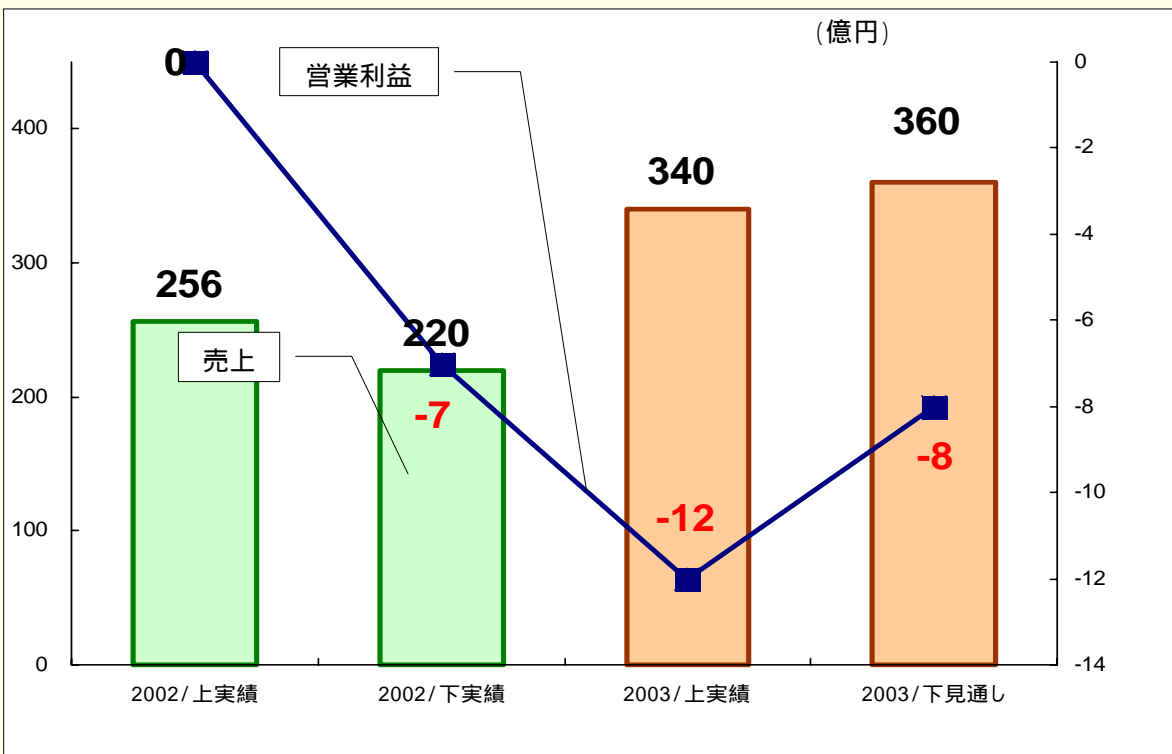
【減益要因】

- 実質販売の減収
- 売価ダウン

## 下半期のポイント

- ものづくり体制の正常化 拡販
- FDBE-タ生産体制確立
- 2波長ピックアップの立上げ

(億円)



	2003年見通し	2003年当初	2002年実績	当初比	前年比
売上	700	720	476	97%	147%
営業利益	-2.9%	1.4%	-1.5%		
	20	10	7	30	13

## 上半期の販売状況

	実績	計画	達成率	前年比
国内	744	700	106%	94%
海外	78	70	111%	82%
合計	822	770	107%	92%

音楽業界前年比 14%ダウン

## 上半期の増減要因(前年差)

### 【増益要因】

- 記録メディアの販売達成
- 音楽事業の改善
- 原価改善

### 【減益要因】

- 売価ダウン

## 下半期のポイント

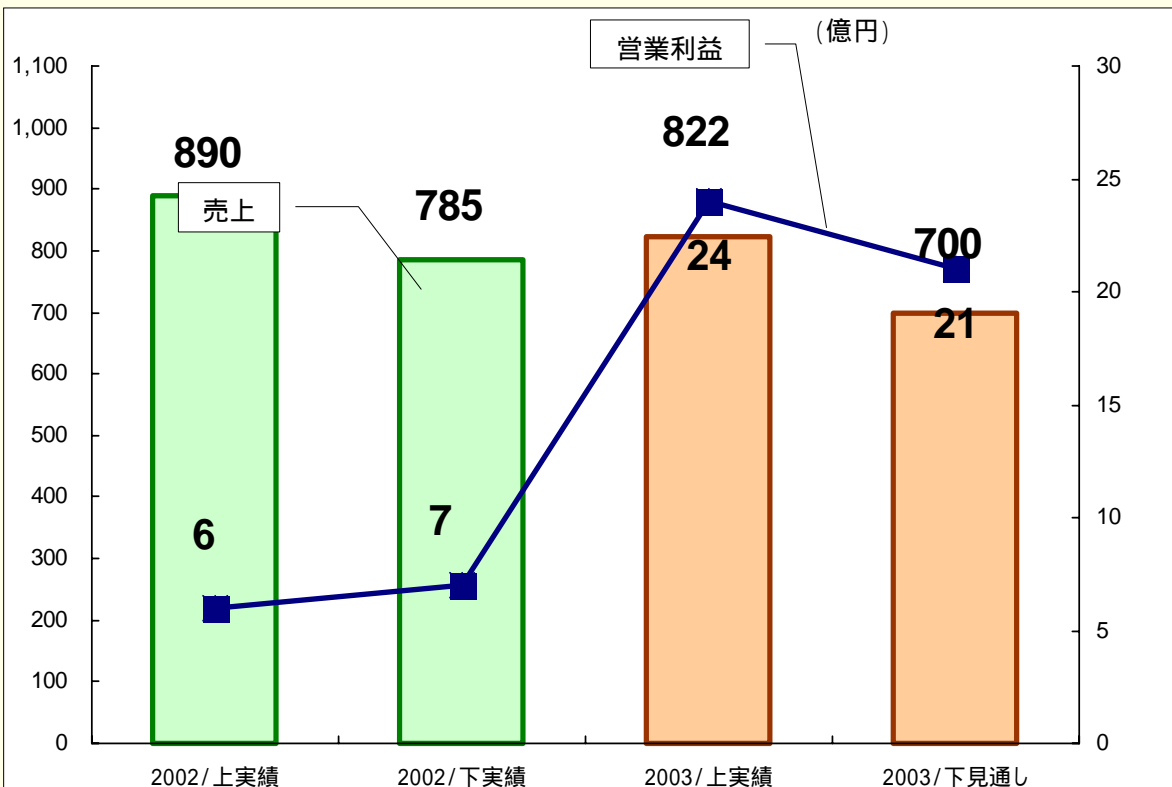
### •バリューチェーンの強化

### •売価下落への対応

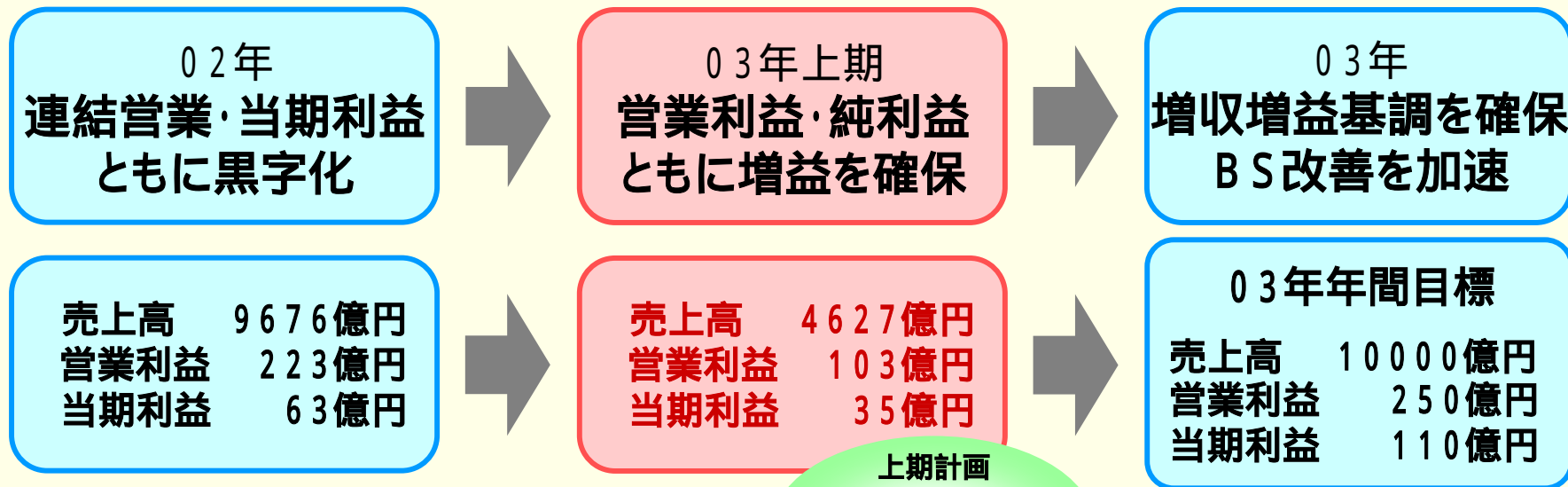
DVCテープ・DVD記録用ディスク

### •記録メディアの拡売

間口拡大



	2003年見通し	2003年当初	2002年実績	当初比	前年比
売上	1,522	1,450	1,675	105%	91%
営業利益	3.0%	2.1%	0.8%		
	45	30	13	15	32



## 2003年度基本方針

- ・引き続き、再生への意識改革の徹底と  
 経営体質改革の推進を行なう
- ・5重点分野のOnly1商品でシェアアップとブランド価値向上
- ・増収増益基調を確保し、資金造出・BS改善を加速する



## 2003年度の取り組み・指標

## 2003年度上期の進捗状況

### 原価 創造

キーデバイス安定調達のためのキー・サプライヤー政策  
02年度からの継続テーマの積極推進  
(設計VE活動/国内サプライヤー集約 / 中国部品開発・購買)  
グローバル購買コストダウン 371億

キーデバイス安定調達  
パートナーシップ強化・メーカー集約  
中国部品開発  
上海ラボセンター設置  
設計VE・購買コストダウン  
上期実績 188億

### もの づくり 改革

設計プロセス改革(2年目)のさらなる推進  
「ものづくり総本山化」プロジェクトの取り組み加速  
量産化技術の強化

プロジェクト活動で推進中  
DVC, ホームシアター生産海外移管推進  
クロスファンクショナルチーム活動にて推進中

### 物流 改革

物流拠点の集約実行  
・米国: (02/3) 5 (04/3) 4 (04年度3拠点化)  
・欧州: プロ物流拠点統合 3販社別在庫を1拠点へ  
・国内: 横浜地区分散倉庫 9ヶ所を3ヶ所へ  
民生ロジスティクス改革スタート

拠点集約は予定通りに推進中  
・米国: 西部新拠点の稼働(03/6)  
・欧州: 在庫移管を推進中  
・国内: 横浜新倉庫の稼働(03/7)  
カンパニー内に専任チーム設置(4名)

### SCM 構築

民生SCM稼働/業務プロセス・ウイークリー化による高回転経営  
日程ターゲット: (03/5) 日本・アジア4工場スタート  
(03/9) 米・欧・アジア6工場(民生全工場スタート)

5月DVD SCM稼働  
7月米州TV SCM稼働  
下期に6ジャンルにてSCM稼働目標

## 上期までの ラインアップ



### PDP

50V型を新投入  
地上波デジタル放送対応  
独自高画質技術「新DET」  
高音質「新DDスピーカー  
& サブウーハー」

## 下期のラインアップ



ハイビジョン  
+ 地上波デジタル  
+ BS・110度CS



ハイビジョン  
+ 地上波デジタル  
+ BS・110度CS



**市場導入(上期)から、ラインアップ強化によるシェア確保へ!**



### 液晶テレビ

3モデルを追加し、  
ラインアップを強化  
全モデルハイビジョン対応  
「新DET」+  
「オブリコンスピーカー」\*



\*) 26V/32Vのみ

## 上期までのラインアップ



マルチフォーマット対応  
DVDレコーダー



大ヒット“GR-D200”



DDスピーカー、デジタルアンプ  
搭載MDコンポ

## DVDレコーダー

複合機の投入で  
ラインアップを強化  
マルチフォーマット対応、  
高画質高音質の思想を継承

## カムコーダー

D200で培った“ベビームビー”  
ブランド認知を強化

## オーディオ

“音のビクター”として  
あくなき“高音質”の追求

## 下期の新商品



HDD内蔵型



VHS一体型



新型“ベビームビー”



ウッドコーンスピーカー搭載ミニコンポ



DVD & WMD搭載マイクロコンポ

ハイパフォーマンス  
グローバルカンパニー

# The Perfect Experience

お客様に最高の感動と100%の満足を

音楽と映像で  
新しいコミュニケーション  
を実現する

寡占の進むAV業界で生き残り、  
AV商品(音楽と映像)を通じて  
お客様に新しく、豊かな生活を  
提案する“Only 1”の思想を貫く

感動と満足

# Entertainment Solution

デザイン

コンサル  
テーション

インスト  
レーション

使いやすさ

マーケット・イン  
思想の徹底

ハードとソフトの  
シナジー

開発・生産・販売  
三位一体のスピード

お客様第一

従業員大事

自主責任経営

# The Perfect Experience

## お客様に最高の感動と100%の満足を

ビクター/JVCは高品位技術で新しいコミュニケーションを提案し、音楽と映像の感動を人々に伝えてゆきます。

“The Perfect Experience”とは、

ビクター/JVCの技術で、商品で、お客様に最高の感動を演出すること。そしてお客様の生活に潤いを与え、また、その使用シーンにおいて、生涯満足をいただくというビクターの約束です。